

1

コソボ危機に関する展示および募金

長崎県西彼杵郡時津町青雲高等学校

報告者 生徒会 清水良平 伊藤章吾

今回の学園祭では、コソボに目を向けてもらおうと言うことで展示や募金の準備を進めるべく10人弱の少数精鋭部隊を結成したのです。全員コソボについては無知。しかし、ユニセフの資料や新聞の切り抜きや世界史の先生の協力もあって、展示用の資料を完成させたのです。

その間にも知らなかった私たちメンバーは、コソボの現状を知るにつけ、募金への意欲を高めていったのです。次第に本気になっていきました。

当日は巨大なのぼりで宣伝し、自作資料の展示、マイケルジャクソンのダンスで人集めをして、ナースキャップの女子を動員

した人は現状を知ったせいか、かなりたくさん募金をしてくれました。私たちはもっと社会に対して興味をもつことをしなければと思いました。



したり、派手なこともしましたが、終わって見れば、過去最高の21万円を集めてとても充実した一日でした。この機会を通して、すごく社会のことに興味がわいたと同時にどれほど自分たちが恵まれているかを知り勉強になりました。

実際、コソボへの募金という周囲の人たちは「あのコソボか」という感じで募金を快く引き受けてくれたし、展示を見に来てくれ



2

クラスから募金活動

京都府立鴨沂高等学校

報告者 3年6組 大田純平

ぼくたち3年生は毎年クラスごとにテーマを決め、それをパレードという形で社会に訴えることをやっています。3年6組は「難民救済」をテーマにして活動しました。

まず、ユニセフに電話をかけ、さまざまな資料を送ってもらい、世界の難民について調べました。その中でアフリカに多い難民を救う活動をすることにしたのです。

そして、それにちなんだ山車を作りました。当日はパレードと同時に募金活動をしたり教室で模擬店をしました。その結果、集まったお金を全額ユニセフに寄付することにしました。他のクラスも

テーマは違っても広く命を救うという意味で寄付に協力してくれました。

この募金で少しでも多くの命が救われるならば私たちはすごくうれしいです。



3

モンゴルのストリートチルドレンを守る

武庫川女子大学附属中学校・高等学校 報告者 風紀委員会 田中由希子 武田幸代

今回はモンゴルのストリートチルドレンを守るプログラム支援に指定募金しました。それはユニセフ協会からお送りいただいた資料を見て、アジアの隣国について、いかに私たちが知らないかを思い知らされたからです。

お借りしたビデオテープ、スライド、パネルはとてもよく分かりました。これらの資料のおかげで私たちのメンバーだ



けでなく、多くの人にストリートチルドレンに関心をもってもらうことができました。

11月13・14日は本校の文化部発表会です。私たち風紀委員会は、この両日「モンゴルのストリートチルドレンの現状」とユニセフが行っている救援活動について紹介しました。展示を見ていただいた皆さんの感想をいくつか紹介します。

今まで全然知らなかったモンゴルのことを知ってとても驚きました。もう少し世界の子どもたちについて考えようと思いました。改めて現実を見たような気がします。初めて募金の意味がわかった気がします。

私たちの豊かな生活の裏に、こういう人たちがいることを忘れてはいけないと思いました。

今、私たちはとても豊かな環境で生活しているんだあと実感しました。だからこそ、何ができるかを考えて行動に移さなければならないと思います。



4

ユニセフリーダー講座の参加者が文化祭で活躍

東京都町田市鶴川高等学校

報告者 向山裕子先生

文化祭は、生徒にとってそれまでに積み上げてきた調査、研究をさまざまな形で表現する貴重な学校行事だが、今年ほど有意義に活用されたことはなかったように感じる。これはユニセフリーダー講座に生徒たちが参加させていただいたからに他ならない。

本校の文化祭は、部活動発表の他に、3年生が食堂を運営し、1、2年生が展示発表とバザーを行うのが常であるが、単に食堂を運営するだけでなく提供する食品について研究しようということにな



りました。食品をたどっていくと日本は海外からの輸入に依存しており、世界の平和と穏やかな発展が、日本人の安定した生活を支えているのだということを再認識するために、下記のような学習から活動へ、そして生き方を考えるという流れを作りました。

世界各国からの食材の輸入

日本人の食卓

文化祭の収益金

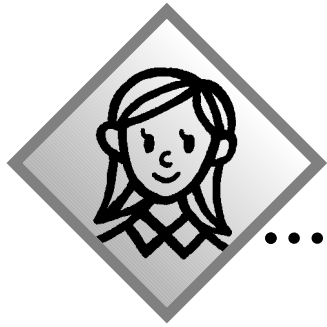
ユニセフを通じ世界各国へ

リーダー講座で理解したことをクラスで発表したり、インターネットでユニセフを検索し、理解を深めました。何より有意義だったのはバザーをする下級生のクラスにリーダー講座の参加者がユニセフ活動について説明に行き、意識を高めた上でバザーに取り組めたということで

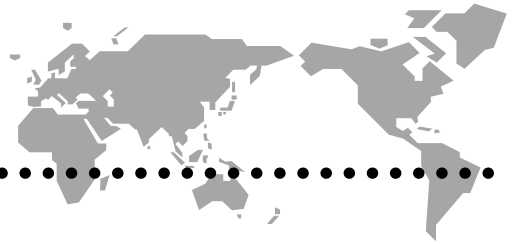
す。生徒はこの活動を通じ、実際に行動することによって自信をつけ、満足した様子でした。今後生徒たちは、さまざまな進路を選択していけるだろうが、何かがついたことがあったら、自分で調べ、自分ができることを見つけ、参加し協力していくという生きる力が身についたのではなかろうか。

*「ユニセフリーダー講座」：夏休み期間中に日本ユニセフ協会が開催する中学・高校生対象の講座。昨年度は20校から100名近くが集まる。ユニセフや世界の子どもの状況についての説明のほか、参加型のワークショップを実施。申し込みは、誰でも参加できる。





高等学校



1 JRC部員のユニセフ活動 佐賀県立佐賀農業高等学校

報告者 佐賀農業高校 JRC部

本校JRC部のユニセフ活動は1998年に始まりました。はじめはユニセフの名前さえ知らないものや、名前は知っていてもどんな活動をおこなっているのか知らない部員ばかりでした。私たちJRC部員でさえこの様な状態であったので、本校生徒にユニセフについて知ってもらうには、大きな舞台での活動が必要だと思いました。

そこで、文化祭の佐農祭で活動することにし、パネルを展示しました。しかし、ただのパネル展示だけでは来客者に見てもらえないと思い、部員たち全員で知恵

を絞りクイズを考えたのです。クイズの答えはパネルを見れば分かるようにしました。正解者には、抽選で図書券やテレホンカードをプレゼントするとしたところ、1998年の佐農祭では、700を越える回答者がありました。

クイズは例えば次のようなものです。

1. ユニセフは政府などと協力して何を育てる支援をしていますか？
A.政治 B.子ども C.先生
2. 子どもたちが水運びの手伝いをする時に使う水がめの水が入った時の重さは何キロですか？

A. 10kg B.15kg C.20kg

また、体験コーナーとして下痢による脱水症状を防ぐ経口補水塩の水溶液をJRC部員が作りそれを来訪者に飲んでもらったり、15キログラムの水がめを持ってもらったりしました。

生徒のみならず地域の方々が活動の趣旨を理解してくださったことが、クイズの回答数や募金額から分ります。募金をしてくださった方々には部員が作ったしおりを差し上げることにしました。

今後も「ください!! あなたの優しさを!!」と、ねばり強く呼びかけたと思います。

2 理解を深めてユニセフ募金 東京都立飛鳥高等学校・定時制

報告者 加藤 知子 先生

本校は定時制であり、さまざまな背景を持った生徒があり、年齢構成にもばらつきがある。単位制という仕組みのため、

一人ひとりが異なる時間割で授業を持っており、普通校のようなホームルーム中心の人間関係が形成されにくい。

そこで、本校では以下の3つの形態から好きなものを選んで文化祭に参加する仕組みをとっている。

文化祭実行委員会（生徒会中心）		文化祭全体の運営・全体企画の実施
講座 自分の受講している講座に関係ある研究発表	クラブ 日ごろのクラブ活動の成果発表	有志 グループで自由に内容設定できる（模擬店など）

今年度は、募金活動のみをおこなった前年度の反省を生かし、ユニセフについての理解を深めてもらった上での募金活動が望ましいと考え、講座参加の生徒がユニセフについての展示発表を担当し、それとタイアップする形で生徒会が募金活動をおこなった。全校的に参加意識を持てるような形態でおこなうことにした

のである。

具体的な活動は、文化祭1週間前の準備期間を利用して、ユニセフ資料を使い、世界の子どもの現状とユニセフ活動について視覚的にわかりやすい形で模造紙にまとめた。それを文化祭当日に会場入り口付近にパネルとして展示した。

また、文化祭当日は、文化祭用金券売

り場付近に展示されたパネルの脇に募金箱を置き、文化祭に訪れた様々な人に関心を持ってもらうと同時に募金をしてもらった。

定時制ということで準備のための時間が限られている中で、講座に参加した生徒たちは自主的に取り組み、ひとりひとりのユニセフへの理解は深まったと思う。